

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2025年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
学修支援・教育開発センター	7月22日（火） 10:30～11:00	○	オンライン	本学教職員	オープンバッジとは ～教育プログラム修了の新たな証明手段～	山川 剛史 （教学企画部・課長）	2025年度に導入したオープンバッジについて理解を深めることを目的として実施した。オープンバッジの基本概念や活用メリット、他大学の事例を紹介するとともに、本学における発行プロセスや運用方法について解説し、教育における活用の検討につなげることを図った。	◎			31
	9月10日（水） 13:30～14:50	○	オンライン	本学教職員	授業における著作権 －教職員が知っておくべき著作権の知識－	石島 寿道 氏 （一般社団法人学術著作権協会 事務局長）	本FDは、授業における著作物利用に関する理解を深めることを目的として実施した。授業目的における利用の留意点を踏まえ、著作権侵害の事例や適法利用の範囲について講師が解説を行い、教育における適切な著作物利用に関する知見の共有を図った。	◎			89
	12月3日（水） 13:30～15:00	○	対面・オンライン	本学教職員・一般	日本の大学における学生参画の現状と今後の可能性	田中 正弘 氏 （筑波大学 准教授）	教育の質保証等が求められる高等教育の状況を踏まえ、学生参画の現状と今後の可能性について理解を深めることを目的として実施した。専門家による講演を通して知見を共有するとともに、他大学および本学の学生を交えたパネルディスカッションを実施し、教育改善に対する学生の意識や今後の学生参画のあり方について考える機会を提供した。	◎			107
	1月27日（火） 15:15～16:45	○	オンライン	本学教職員	生成AI時代の学習評価を考える －生成AIへの『丸投げ』を防ぎ、学びを評価するための実践的アプローチとは－	中村 大輝 氏 （宮崎大学 教育学部 講師）	本FDは、生成AIの普及に伴う大学教育の変化と課題への理解を深めることを目的として実施した。本学におけるガイドライン策定を踏まえ、学修の質低下や不正利用への対応、AI活用を前提とした評価のあり方について、講師による解説を通して知見の共有を図り、教育実践への活用につなげることを目指した。	◎			109
	2月18日（水） 15:15～16:00	○	オンライン	本学教職員	GPSacademic活用事例紹介 －学生スタッフ対象スキルアッププログラムを基に－ ※教学IRワークショップおよび指定研究プロジェクトの中間報告を兼ねて実施	小林 珠子 （教学企画部・専門員）	「学生スタッフの実態調査」およびその回答学生を対象としたスキルアッププログラムの実施結果を踏まえ、GPS-Academicの結果の利活用方法について報告を行い、教育改善や今後の取組への活用に資する知見の共有を図った。	◎			10
文学部	10/29（水）	○	対面・オンライン （Teams）	文学部・心理学部教職員 （文学部・心理学部共同開催）	学生支援の取り組み、その現状と課題	こころの相談室 ボランティア・NPO活動センター	本学における学生生活支援の取り組みとその現状について、こころの相談室の他、ボランティア・NPO活動センターなど学生の課外活動支援に関わる担当者からのご報告を踏まえ、総合的にその現状を理解するとともに、課題について考える機会とする。	◎	○	◎	79
心理学部	10/29（水）	○	対面・オンライン （Teams）	文学部・心理学部教職員 （文学部・心理学部共同開催）	学生支援の取り組み、その現状と課題	こころの相談室 ボランティア・NPO活動センター	本学における学生生活支援の取り組みとその現状について、こころの相談室の他、ボランティア・NPO活動センターなど学生の課外活動支援に関わる担当者からのご報告を踏まえ、総合的にその現状を理解するとともに、課題について考える機会とする。	◎	○	◎	28
経済学部	2月25日（水） 教授会内	○	対面 紫英館大会議室	本学教職員他	経済学部における農村実習の成果と課題（PBLって簡単に言うけれど***）	西川 芳昭 西川ゼミ受講生	本報告では、経済学部におけるフィールドワーク型教育の成果と課題が整理され、その意義が示された。食と農をめぐる複雑な地域課題に学生が現場で向き合うことで、理論学習との相乗効果や調査力・協働力の育成が期待される。一方で、短期参加の限界や学生の負担、大学側の支援体制の不足といった課題も明らかにになり、継続的かつ実効性のある教育実践の必要性が論じられた。	◎		○	41

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2025年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
経営学部	2月25日	○	オンライン:zoom	龍谷大学教職員	災害時・防災の観点から、学生の人権や大学運営、教育機関が果たすべき責任や配慮について考える	神戸大学名誉教授 室崎益輝氏	災害時・防災の観点から、学生の人権や大学運営、教育機関が果たすべき責任や配慮について。	◎	◎	◎	28
社会学部	11月26日	○	オンライン	社会学部教員	公共社会学について	村澤教授	2年次の必修科目「公共社会学Ⅰ、Ⅱ」の認識共有、授業設計について検討する。	◎	○	○	30
	6月25日	○	オンライン	社会学部教員	新任教員の研究内容紹介、前年度研究員の成果報告	数実准教授、松浦准教授、脇田教授	新任教員の研究内容紹介、前年度研究員の成果報告を行う。		◎	○	34
	10月22日	○	オンライン	社会学部教員	湖南省×社会学部 連携事業 市内の運動資源やすき間時間にできるストレッチ体操をまとめた「運動マップ」の共同制作	井上(辰)教授	湖南省×社会学部 連携事業 市内の運動資源やすき間時間にできるストレッチ体操をまとめた「運動マップ」の共同制作に関する報告。	○	○	◎	33
	3月2日	○	オンライン	社会学部教員	授業における生成AI利用の意義と課題	中井 俊樹 愛媛大学教授	教員活動自己点検シート記載の組織的対応が必要な課題に多く記載されていた、生成AIに関する内容について取り扱う。	○			25
農学部	6月11日	○	オンライン	本学教職員	2025年度農学部・農学研究科における進路実績報告に関するFD	キャリアセンター	農学部7期生及び農学研究科6期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4 年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	◎		○	45
	9月17日	○	オンライン	本学教職員 農学部生・農学研究科生	農学部教員の研究内容に関するFD 龍谷 食と農のサイエンスセミナー	農学部教員	各教員が自身の研究内容を紹介し研究活動の活性化及び教員の交流機会を創出する。 食料農業システム学科 中川 雅嗣 タイトル:包絡分析法による米作の生産性の変化とその収束速度 農学科 松村 篤 タイトル:ダイズの安定生産に向けた生育・収量と土壌環境要因との関わり	○	◎	○	42
	10月29日	○	オンライン	本学教職員	「農学部7期生の学修状況」「大学IRコンソーシアム学生調査結果」「2025年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果 検証結果報告」についてのFD	農学部教員	「農学部7期生の学修状況」「大学IRコンソーシアム学生調査結果」「2025年度アセスメントプランによる学修成果・教育成果 検証結果報告」について	◎			48
短期大学部	10月1日	○	対面	本学教職員	教育と研究に活用できる生成AI 最新活用事例	京都華頂大学現代生活学部 積 高之先生	大学教育と研究における生成AIの概要および活用のポイントを、事例を交えて説明を受ける。	◎	○		9
	1月14日	○	対面	本学教職員	揺さぶられっ子症候群(乳幼児揺さぶり症候群)をめぐる冤罪問題から「子どもの権利」・「虐待防止」・「家族支援」を考える	龍谷大学法学部 古川原明子教授	日本では児童虐待防止の取り組みが強化される一方で、医学的診断や捜査過程における誤解から、保護者や養育者が「揺さぶられっ子症候群」を理由に冤罪に巻き込まれる事例が報告されており、これは誤認が子どもの安全を守るという社会的使命と、家族の権利を保障するという法的・倫理的課題の間に深刻なジレンマを生じさせている。 「虐待防止」と「冤罪防止」という2つの重要な価値をいかに両立させるかという、福祉・教育・司法の現場に共通するテーマで考える。			◎	15

各学部・研究科におけるFD活動等実施状況調査表【2025年度活動報告】

主催	日時	全学公開	開催方法 開催場所	対象	テーマ	講師	概要	FDの区分			参加人数
								教育	研究	社会貢献	
経済学研究科	10月22日（水）	○	対面（研究科委員会内） 紫英館大会議室	本学教職員	修士課程学生の就職活動の現状について	堀田 和弥 氏（キャリアセンター（深草））	今後の修士課程在籍学生へのキャリア形成支援を強化に向けて、本学の社会科学系大学院の修了者の進路状況の把握と在籍学生の就職活動状況の理解を深める機会とする。	○			28
国際学研究科	10月22日（水） 12:40～13:30	○	オンライン	全学	在外研究員研究活動報告 街が育む文化創造 ―文学研究・創作・支援の一年―	澤西 祐典	在外研究員研究活動報告	◎	◎		13
	12月3日（水） 12:40～13:30	○	オンライン	全学	在外研究員研究活動報告 「19世紀末の日本仏教の近代化と国際化の活動―英文仏教雑誌の分析をととして」	嵩 満也	在外研究員研究活動報告	◎	◎		19
社会学研究科	7月23日	○	対面 聞思館303教室	本学教職員	留学生に対する教職員からのサポートに関して	遅 力榕 准教授 （本学短期大学部）	社会学研究科は本年度も新入生の大きな割合を留学生が占めることとなった。 留学生の置かれている状況は年々変化しており、彼らの抱える問題もまた、数年前とは様相を大きく異にしている。自ら留学生として来日し、大学教員としてのキャリアを歩み始めた研究者を招いて講演会を開催した。ここ数年における留学生をとりまく状況を概観し、彼らの研究・就職に対する支援はどうあるべきか、また外国人留学生に対する周囲の眼が大きく変化している現況にあって、彼らに対する主にメンタル面でのケアをどのように行っていくべきかについて、講演者と共に考える機会を得た。	◎	○		18
農学研究科	6月11日	○	オンライン	本学教職員	2025年度農学部・農学研究科における進路実績報告に関するFD	キャリアセンター	農学部7期生及び農学研究科6期生の就職状況の結果分析や学科毎の進路業種の傾向などをキャリアセンターから報告する。 また、現在行っている4 年次生の進路希望調査の結果についても学部・研究科内で共有し、今後の就職支援の方策などを考える機会とする。	◎		○	45
	9月17日	○	オンライン	本学教職員 農学部生・農学研究科生	農学部教員の研究内容に関するFD 龍谷 食と農のサイエンスセミナー	農学部教員	各教員が自身の研究内容を紹介し研究活動の活性化及び教員の交流機会を創出する。 食料農業システム学科 中川 雅嗣 タイトル:包絡分析法による米作の生産性の変化とその収束速度 農学科 松村 篤 タイトル:ダイズの安定生産に向けた生育・収量と土壌環境要因との関わり	○	◎	○	42